

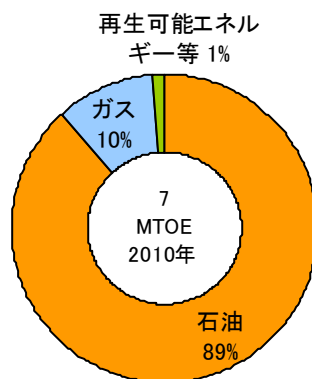
4-10 イエメン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 7百万 TOE (日本の0.02倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 0.30TOE (日本の0.08倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 276%
- (4) エネルギー起源 CO₂排出量 (2010年) : 21.65百万 CO₂換算 ton (日本の1.9%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂排出量 (2010年) : 0.9 CO₂換算 ton (日本の10.0%)
- (6) エネルギー別可採年数 (2011年末) : 原油 32.0年、ガス 50.7年

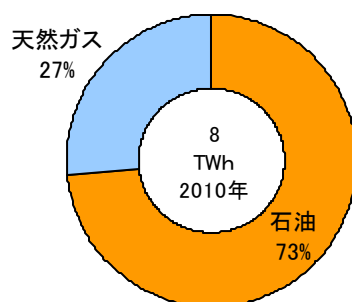
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Yemen

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Yemen

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 石油・ガス・鉱物資源省 (Ministry of Oil & Mineral) が石油・ガス政策の担当機関である。本省に直結してイエメン総業 (Yemen General Corporation; YGC) があり、この下に石油ガス鉱区管理会社、投資会社、石油精製会社、石油輸出管理会社、鉱区契約会社などの各分野を担う国営企業が組織されている。
- 電力は電力省 (Ministry of Electricity & Energy) の下に国営電力会社 (Yemeni Public Electricity Corporation; PEC) があり、発電・送電・配電を担っている。

(2) 基本政策

- 石油の輸出が国家の財政基盤である。これに加えて、天然ガス事業を、財政を支えるもうひとつの柱にしようとしている (2009年10月にLNGの生産・輸出を開始)。
- 貧困対策および国内経済の推進のため、社会インフラとしての電化率の向上を目指す。

(3) 最近の動向

- エネルギー輸送をはじめとする海上ルートの難所であるAden湾の海賊行為を減少させるために、国際社会はイエメンの政治的安定に大きな期待を寄せている。2011年9月28日には、東京マリンが運行するケミカルタンカーがイエメン沖で被弾するなど、実際の影響が出ている。
- 「アラブの春」の影響を受け、1978年以来君臨してきたSaleh大統領の治世に反対する抗議運動が全土で頻発、多数の死傷者が出た。その後、Saleh大統領は2011年11月23日にサウジアラビアのRiyadhにおいて、湾岸協力会議(GCC)の仲介案に署名し、権限を委譲することとなった。
- 2012年2月21日に大統領選挙が行われ、Hadi副大統領が暫定大統領に当選した。選挙は事実上の信任投票となった。
- 国内治安の不安定化により、石油・ガスなどのパイプラインが爆破され、生産が停止している。2010年に30万b/dの原油生産量が、2011年には16万b/dにまで減少。イエメン政府は、重要インフラに対する警戒態勢を高めている。
- 燃料や電力供給が滞っているため、工場閉鎖などが相次いでいる。2011年1月から6月までの経済損失は、GDPの6割相当。
- 2012年3月27日、サウジアラビアはイエメンに対して、石油製品を無償で供給することを表明している。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2011年度におけるイエメンからの原油輸入量は16.5万kl (我が国輸入量の0.08%)、LNG輸入量は36.2万MT (同0.2%)であった。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	7 百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.30 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.34 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	276 %
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	21.65 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	0.9 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	一次エネルギー供給構成	
	石炭	0 %
	石油	88 %
	ガス	10 %
	原子力	0 %
	水力	0 %
	再生可能エネルギー等	1 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	— %
(9)	石油の輸入依存度	— %
(10)	輸入原油の中東依存度	0.0 %
(11)	原油輸入先 (2007年)	
	第1位	—
	第2位	—
	第3位	—

(出所) (1)~(4) 及び (7)~(9) : IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

(5)~(6) : IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition

(10)~(11) : Blackwell, World Oil Trade : An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements, September 2009.